

Title	鈴木淳子略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2018
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.85 (2018.) ,p.101- 104
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2017年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000085-0101

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017年度定年退職者略歴・著作目録一覧

鈴木 淳子（すずき あつこ）

学歴

- 1971年3月 東京都立竹早高等学校卒業
1971年4月 東京女子大学文理学部入学
1975年3月 東京女子大学文理学部卒業
1983年4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程前期課程入学
1985年3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程前期課程修了
1985年4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程後期課程進学
1987年9月 ハーバード大学大学院（Graduate School of Arts and Sciences）特別研究生（フル
ブライト奨学生）（～1988年6月）
1988年9月 ハーバード大学大学院（GSAS）東アジア研究プログラム修士課程入学
1989年6月 ハーバード大学大学院（GSAS）東アジア研究プログラム修士課程修了
1989年9月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学
1989年9月 ハーバード大学大学院（GSAS）心理学科客員研究員（～1990年3月）

学位

- 1985年3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学修士
1989年6月 ハーバード大学大学院（GSAS）東アジア研究プログラム Master of Arts
1999年1月 東北大学大学院文学研究科博士（文学）

職歴

- 1975年4月 通産省財団法人海外技術者研修協会専任講師（～1976年5月）
1994年4月 江戸川大学社会学部応用社会学科専任講師（～1996年9月）
1996年10月 東北大学文学部助教授（～1999年3月）
1999年4月 東北大学文学部教授（～2000年3月）
2000年4月 東北大学大学院文学研究科教授（～2009年3月）
2009年4月 慶應義塾大学文学部（人間科学専攻）教授（～2018年3月）

非常勤講師歴

- 1976年6月 通産省財団法人海外技術者研修協会（～1985年3月）
1990年4月 慶應義塾大学文学部（～1994年3月）

1990年4月	杏林大学社会科学部（～1994年3月）
1992年4月	立正大学経営学部（～1994年3月）
1993年4月	関東学院大学文学部（～1994年3月）
1993年5月	財団法人東京女性財団研究員（～1994年5月）
2002年8月	慶應義塾大学通信教育部（夏期スクーリング）
2003年8月	宮城学院女子大学生生活文化学科（集中講義）（～2007年）
2004年8月	慶應義塾大学通信教育部（夏期スクーリング）（～2005年）
2004年10月	茨城大学人文学部（集中講義）
2007年1月	山形大学人文学部（集中講義）（～2008年）

称号

2009年3月 東北大学名誉教授

研究業績

①単著

- ・『レクチャー「社会心理学」III：性役割—比較文化の視点から—』 垣内出版 1997
- ・『調査的面接の技法』 ナカニシヤ出版 2002
- ・『調査的面接の技法』（第2版） ナカニシヤ出版 2005
- ・ *Gender and Career in Japan. Stratification and Inequality Series, Vol. 6, Melbourne, Victoria: Trans Pacific Press. 2007*（編著）
- ・『質問紙デザインの技法』 ナカニシヤ出版 2011
- ・『質問紙デザインの技法』（重版） ナカニシヤ出版 2013, 2014
- ・『質問紙デザインの技法』（第2版） ナカニシヤ出版 2016

②共著

- ・『ジェンダーの心理学 心と行動への新しい視座 心理学の世界 専門編5』（柏木恵子との共著） 培風館 2006

③論文

- ・異文化間コミュニケーションにおける専門職の適性—翻訳家と通訳者の場合— 社会心理学研究, 1-2, 52-57. 1986
- ・フェミニズム・スケールの作成と信頼性・妥当性の検討 社会心理学研究, 2-2, 45-54. 1987
- ・Aptitudes of translators and interpreters. *Meta*, 33, 108-114. 1988
- ・広告描写に対する現代女性の態度—役割意識とフェミニズム水準との関係において— 産業・組織心理学研究, 2-1, 37-48. 1988
- ・平等主義的性役割態度：SESRA（英語版）の信頼性と妥当性の検討および日米の女性比較 社会心理学研究, 6-2, 80-87. 1991
- ・Egalitarian sex role attitudes: Scale development and comparison of American and Japanese women. *Sex Roles*, 24-5, 245-259. 1991
- ・Predictors of women's sex role attitudes across two cultures: United States and Japan. *Japanese Psychological Research*, 33-3, 126-133. 1991

- ・性役割態度研究の展望（東清和と共著）心理学研究, 62-4, 270-276. 1991
- ・脱男性役割態度スケール（SARLM）の作成 心理学研究, 64-6, 451-459. 1994
- ・平等主義的性役割態度スケール短縮版（SESRA-S）の作成 心理学研究, 65-1, 34-41.
- ・家庭における男と女 井上實（編）『おもしろ男女共生の社会学』学文社 99-116. 1994
- ・経営と性役割 斎藤勇・藤森立男（編）『経営産業心理学パースペクティブ』誠信書房 132-145. 1994
- ・経営と性役割 斎藤勇・藤森立男（編）『経営心理学トピックス100』誠信書房 153-167. 1995
- ・若年女性の平等主義的性役割態度と就労との関係について—就労経験および理想の仕事キャリア・昇進パターン— 社会心理学研究, 11-3, 149-158. 1996
- ・若年女性のキャリア選択規定要因に関する縦断的研究—同一組織における就労継続および転職— 心理学研究, 67-2, 118-126. 1996
- ・男性と女性に期待されるもの—性役割— 宗方比佐子・佐野幸子・金井篤子（編著）『女性が学ぶ社会心理学』福村出版 137-150. 1996
- ・最近の環境変化と働く女性の行動（馬場房子・高島順子・小野公一・越河六郎との共著）応用心理学研究, 24, 41-64. 1998
- ・高学歴夫婦における性役割態度の関係—就労とのかかわりに関する社会心理学的考察— 理論と方法, 14-1, 35-50. 1999
- ・男/女になる 小林裕・飛田操（編著）『【教科書】社会心理学』北大路書房 228-242. 2000
- ・ジェンダーの比較文化的研究—日本女性の特性はこの30年でどう変わったか— 柏木恵子・高橋恵子（編）『心理学とジェンダー 学習と研究のために』有斐閣 115-119. 2003
- ・ジェンダーに関する比較文化的研究の動向—1990年以降の概念定義とメソドロジーを中心に— 心理学研究, 75-2, 160-172. 2004
- ・家族とジェンダー 潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』北大路書房 148-156. 2007
- ・キャリア・ジェンダーと不平等 原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』放送大学教育振興会 177-191. 2008
- ・男性性とメンタルヘルス 柏木恵子・高橋恵子（編）『日本の男性の心理学 もう1つのジェンダー問題』有斐閣 24-28. 2008
- ・ジェンダーの社会化 菊池章夫・二宮克美・堀毛一也・齋藤耕二（編著）『社会化の心理学／ハンドブック』川島書店 369-382. 2010
- ・ジェンダーと不平等—ワーク・ライフ・バランスの視点から— 大淵憲一監修 『紛争・暴力・公正の心理学』北大路書房 161-173. 2016
- ・ジェンダー役割不平等のメカニズム—職場と家庭— 心理学評論, 60-1, 62-80. 2017
- ④報告書
- ・フェミニズム水準の差異別に見た広告接触の程度—現代女性のライフスタイル特性との関係において— 『昭61年度助成研究集（第20次）（要旨）』（財）吉田秀雄記念事業財団 213-222. 1987
- ・『均等法パイオニア女性はいま—女性の就労パターンに関する時系列的研究—』（西村純一・神尾真知子との共著）（財）東京女性財団 1994
- ・男女平等意識に関する時系列的研究 『1995年度東京女性財団助成事業年次報告書』（財）東京女性財団 58-59. 1996
- ・人の移動に伴う文化変容と価値観の変化：留学生の調査から（大淵憲一との共著）『人の移動にとも

なう社会と文化の変動についての総合的研究：平成12年度東北大学教育研究共同プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科（研究代表者 齊藤征雄）107-109. 2001

- ・『若年女性のキャリア選択規定要因に関する縦断的研究—地域差を中心として—』（科学研究費助成研究 1998年度～2001年度）2001
- ・『若年男女のキャリア選択規定要因に関する縦断的研究I—質問紙調査—』（科学研究費助成研究 2002年度～2004年度）2004
- ・『第97回部門別研究会報告—消費者行動部門— 消費者調査の課題と可能性—リサーチのスキルアップをめざして—』（江利川滋・山田一成・永野光朗との共著）産業・組織心理学研究, 24-2, 133-139. 2011
- ・『第101回部門別研究会報告—消費者行動部門— 社会心理学からみた消費者行動—満足感と動機の視点から—』（永野光朗・道家瑠見子・前田洋光・青木幸弘との共著）産業・組織心理学研究, 25-2, 169-176. 2012
- ・『第105回部門別研究会報告—消費者行動部門— 消費者行動と欺瞞的説得』（安藤清志・今井芳昭・南隆男との共著）産業・組織心理学研究, 26-2, 185-191. 2013
- ・『産業・組織心理学会30周年記念シンポジウム報告 産業・組織心理学のアイデンティティ, 可能性, 社会的貢献: 他の心理学領域の視点から』（大坊郁夫・唐沢かおり・坂上貴之・角山剛との共著）産業・組織心理学研究, 28-2, 111-118. 2015

⑤事典・ハンドブック

- ・働く女性に優しい組織風土と文化をどう築くか 人事マネジメントハンドブック制作委員会（編）『人事マネジメントハンドブック』日本労務研究会 777-779. 2004
- ・ディスカッションに親しもう（佐藤嘉倫との共著）中村捷（編）『人文科学ハンドブック スキルと作法』東北大学出版会 87-93. 2005
- ・ジェンダー 日本応用心理学会（編）『応用心理学事典』丸善 192-193. 2007
- ・面接法 日本社会心理学会（編）『社会心理学事典』丸善 524-525. 2009
- ・ポジティブ・アクション 産業・組織心理学会（編）『産業・組織心理学ハンドブック』丸善 120-123. 2009
- ・面接法 経営行動科学学会（編）『経営行動科学ハンドブック』中央経済社 63-68. 2011
- ・ジェンダー心理学 藤永保（監修）『最新心理学事典』平凡社 243-244. 2013

⑥その他（翻訳）

- ・『イノベーション普及学』E. M. ロジャーズ（著）青池慎一・宇野善康（監訳）（浜田とも子・伊藤隆との共訳）1990 産能大学出版部（Rogers, E. M. 1983 *Diffusion of innovations*, 3rd ed. New York: The Free Press.）
- ・流通業者とPRとの関係（北原明彦・長島広太との共訳）『PRコミュニケーション管理』フランク・ジェフキンス（著）横田澄司（監訳）文眞堂 137-160. 1990（Jefkins, F. 1983 *Public relations for marketing management*. New York: Macmillan Publishing Company, Inc.）